

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 法人企業統計季報(2008年1-3月期)

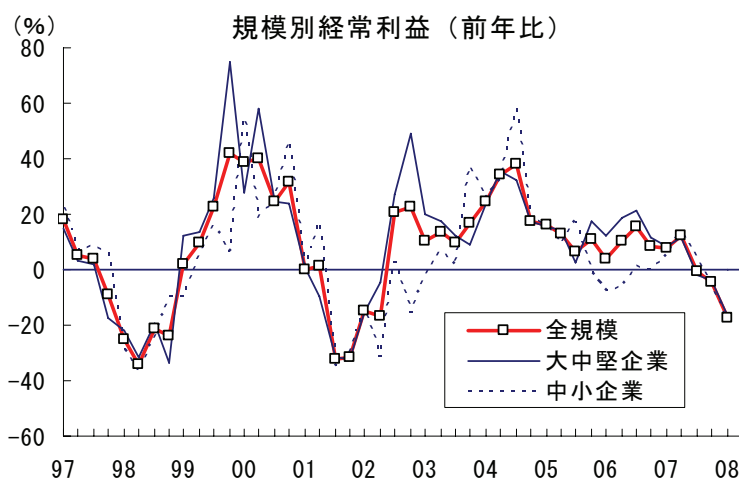
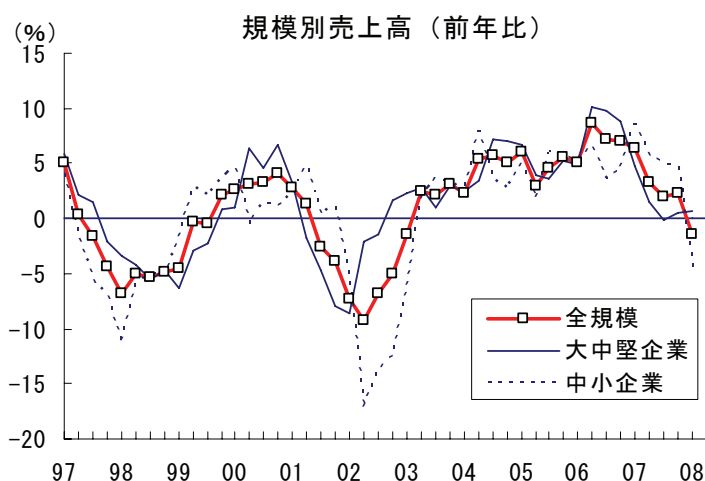
発表日2008年6月4日(水)

～企業収益が大幅悪化～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

(前年比%)	全産業				製造業				非製造業			
	売上高	営業利益	経常利益	設備投資	売上高	営業利益	経常利益	設備投資	売上高	営業利益	経常利益	設備投資
2005年1-3	6.0	10.7	15.8	6.9	4.8	11.8	19.0	8.3	6.5	10.1	14.0	6.2
4-6	3.0	5.2	12.9	6.7	4.4	8.0	14.2	19.7	2.4	3.5	11.9	0.9
7-9	4.6	3.7	6.6	10.6	6.1	8.4	12.6	19.3	3.9	0.6	2.4	6.0
10-12	5.5	4.5	11.1	8.8	7.3	10.9	17.7	16.1	4.7	▲0.1	6.1	5.1
2006年1-3	5.0	0.3	4.1	13.6	6.4	2.9	5.5	20.9	4.4	▲1.1	3.2	10.1
4-6	8.6	6.0	10.1	18.4	5.7	9.2	11.4	15.2	10.0	3.8	9.1	20.1
7-9	7.3	12.5	15.5	11.9	4.3	15.2	18.2	8.3	8.6	10.7	13.5	14.0
10-12	7.0	8.9	8.3	17.6	7.0	13.5	14.8	15.5	7.0	5.3	2.9	18.8
2007年1-3	6.3	8.3	7.4	14.2	2.4	7.3	7.2	13.6	8.0	8.9	7.6	14.6
4-6	3.3	8.3	12.0	▲5.7	7.0	12.4	17.3	10.7	1.8	5.4	8.0	▲14.0
7-9	2.0	0.1	▲0.7	▲0.6	7.6	0.5	▲3.6	5.0	▲0.5	▲0.2	1.5	▲3.7
10-12	2.3	▲6.2	▲4.5	▲7.3	6.5	▲4.6	▲3.3	0.5	0.4	▲7.5	▲5.7	▲11.5
2008年1-3	▲1.5	▲14.2	▲17.5	▲5.3	5.9	▲10.3	▲15.7	0.7	▲4.5	▲16.4	▲18.6	▲8.4

(出所: 財務省、法人企業統計季報) ※設備投資は除くソフトウェア



○ GDP 2次速報は上方修正の見込みだが、企業収益の悪化が鮮明に

2008年1-3月期の法人企業統計季報が公表された。設備投資（ソフトウェア投資額含む）は前年比▲4.9%と10-12月期（同▲7.7%）から減少幅が縮小した。前期比でも+1.3%と増加している。供給側統計を中心に推計されるGDP 1次速報値での実質設備投資は前期比▲0.9%と減少していたが、本日の結果を反映した2次速報（6月11日公表）では前期比+0.2%に上方修正が予想される。GDP全体についても2次速報では前期比年率+3.9%と、非常に高い伸びとなった1次速報の同+3.3%からさらに上方修正される可能性が高い。

一方、企業業績の悪化度合いは増している。売上高は前年比▲1.5%（10-12月期同+2.3%）と、2003年1-3月期以来20四半期ぶりのマイナスとなったことに加え、経常利益も同▲17.5%と、10-12月期の同▲4.5%から減少幅を大きく拡大している。季節調整済み前期比でも▲9.2%と減少幅がかなり大きく、企業収益の悪化傾向が顕著である。原油を始めとする原材料高の高騰が収益を大きく圧迫していることが窺える。また、売上高も悪化しており、コスト増をカバーすることができなかった。先行きについても、原油高の悪影響持続や輸出の減速等を踏まえると、少なくとも7-9月期までは収益の悪化が続く可能性が高いだ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

ろう。その先（10-12月期以降）については、原油価格の動向と米国経済の持ち直し度合い次第だ。原油価格が先行きもハイペースでの上昇を続けるようであれば、年度下期になっても収益が下げ止まらない可能性が出てくる。逆に、上昇が止まる、あるいは下落に転じるようであれば、収益の悪化傾向には歯止めがかかるだろう。

○ 全体としてみればネガティブな結果

設備投資が想定よりも強めだったことは1-3月期が高成長だったことを改めて確認させる材料ではあるが、景気の先行きという観点からは、企業収益の悪化度合いが増している点の方が重要だろう。全体としてみれば、本日の法人企業統計はネガティブな内容だったと判断できる。

先行指標である機械受注が3四半期連続で小幅増加しており、当面の投資を支えるほか、高水準の受注残が投資増に寄与することなどもあって、設備投資が先行き明確に悪化するとの見方を筆者はメインシナリオに据えていないが、リスクは明らかに下振れである。企業収益の悪化が企業の設備投資意欲を冷え込ませていないかどうかを、7月1日に公表される日銀短観（6月調査）などで確認していきたい。

